

令和5（2024）年12月2日（月）発行
赤磐市桜が丘東 6-6-704
さくらが丘保育園

『こどもの「自分でやりたい」を大切にしましょう』②

自分でやってみないとわからないこと、自分でやってみたらこそわかったこと、そんな経験がありませんか。「自分でやりたい」は生きるかに直結していることを実感した一コマを紹介します。

先日「ばあちゃん、〇〇（自分の名前）ちょっとニンジン抜いてくるわ」と3歳児の孫が家の前の畑に出かけていきました。しばらくして、いい大きさのニンジンを3本抜いて得意げに持って帰ってきました。「どこのとったん？」と私が聞くと、「ちょっと来て」とニンジンが生えているところへ私を案内して、「ここと…ここと…ここ」と2,3本一緒に生えているところを上手に間引いています。孫は、休みの日には必ずと言っていいくらい曾祖母か祖父（私の夫）について畑に行っています。やりすぎて曾祖母に注意されていることもあります。私の夫は寛容(?)なので基本的にやりたいことをやりたいだけやらせてもらっているようです。野菜を「間引く」こともその中で覚えたのでしょう。その後、「〇〇な、ニンジン洗って外で食べたい」と言うのですが「今日は寒いから、後で母ちゃんに料理してもらって食べよ」と言うと、とことこと家の中に入って行きました。（母親は不在）しばらくして私が台所へ行くと、きれいに洗われたニンジンがシンク横に置いてありました。「自分でやりたい」を尊重することで少しずつ生きる力が身につくことを知らされました。

花房 由美

お知らせ

○12月5日(木)は、つき・ほし・そら組の園公開です。

◆時間：つき組 9:30~
ほし組 10:00~
そら組 10:30~

保護者の方は、各時間に
ホールにお集まりください。

◆駐車場：つき・そら組 園前駐車場
ほし組 第2駐車場(西岡歯科横)

◆その他：こどもは9時までの登園をお願いします。
(9時までに登園できない方は、ご相談ください)
園公開終了後、一緒に帰られる方は、担任までお知らせください。



お!! 園庭に小石が
あったぞー!!!

お月様の中…
うさぎは見えるかな?



ほしぐみ
お泊り保育

カレーライス
美味しかったよ!



朝…。
ん? お布団
どこ行った?



すずらんより



冬の 注意点

冬はポットやファンヒーターなどによるやけども増える時期です。こどもの手が届かないように工夫をしましょう。

また、年末年始の間は生活リズムが乱れやすくなるので、夜は決まった時間にこどもと一緒に布団に入るよう心掛けると、体調も崩しにくくなりますよ。



年末年始の急病は？

年末年始は、ほとんどの病院が休診となります。こどもの急な発熱やけがに備えて、事前にかかりつけの病院の他、近くの救急病院の診療時間と休診日は確認しておきましょう。また、帰省先の救急病院の情報も把握しておくことが大切です。

私の好きな絵本

学生の頃、本屋さんで目にした絵にひかれ手に取ったのがこの絵本です。そして、これが今の私がある、スタートラインになりました。あとがきに『今は声高く叫ばなければならぬ時かもしれません。しかしその人たちの心のシンに、星のように黙って輝くやさしさが、ほんとうの強さの核となって、更にその歩みを続けてほしいと私は願います。』と、結ばれています。

原谷雅彦

ひさの星



斉藤隆介著 岩崎ちひろ絵

『クラスで今！ブームのあそび① つき組』

じゃんけんのルールが少しずつわかるようになり、じゃんけん列車が楽しめるようになってきました。負けず嫌いな子が多いですが、じゃんけん列車はじゃんけんに負けても友だちと繋がることのできることで、勝っても負けても笑顔で楽しんでいる姿がみられています。回数を重ねるごとに列車が長くなり、こどもたちの笑顔もさらにキラキラしています。



『クラスで今！ブームのあそび② はな組』

絵本の「だるまさん」シリーズが大好きで、絵本を準備しているとニコニコしながら保育者の近くに座り、まだかまだかと待っています。保育者が絵本を読むと「だ、る、ま、さ、ん、が」のセリフで身体を左右に揺らしています。そして、だるまさんがにこっと笑ったりびろーんと伸びたりする真似っこも楽しんでいます。

嬉しそうに、絵本の真似をする姿がとてもかわいらしく、ほっこりします。



～集団あそび紹介～ 『じゃんけん列車』



じゃんけん列車は、列の先頭の人同士がじゃんけんをして、どんどん列をつなげていくゲームです。

1. 歌いながら歩き回り、歌が終わったところでじゃんけん相手を見つけます。
(音楽を流す場合、音楽が止まったら近くの先頭同士の人でジャンケンします)
2. 友だちとじゃんけんをして、負けた人は勝った人の後ろについて肩を持ちます。
3. (1)～(2)を繰り返して、列を伸ばしていきます。
4. その場にいる全員の人々が1つの列になったら終了です。
5. 最後に先頭になった人が勝ちです。





花は咲く



園公開に向けて、合奏に取り組んでいます。大太鼓や小太鼓、トライアングル、ウッドブロックなど今まで手にしたことがない楽器を使って演奏します。

こどもたちは「重たいから手伝って」「そこは、私が置くところだからよけて」「バチが落ちそうだからバチを持って」と用意や片付けもこどもたち自らが進んで行っています。楽器を置く場所や自分の立ち位置も把握しています。一人ひとりが主体的に動いている姿に感心します。

やりたいというエネルギーがあふれています。こどもたちがしようとする姿を見守り、そばで応援したいと思います。

そら組 土屋 勇気



好きなあそびをする時、「はさみ使ってもいい?」「絵を描きたいからやってもいい?」など、自分のしたいことを伝えることが増えてきました。

はさみを使う時は安全面に気をつけて使用しないといけないため、「いいよ」とは言えない時もあります。はさみを使っていい時には、自ら道具箱（自分で作った作品を入れます）とはさみを机の上に準備し、夢中になって取り組んでいます。

ある日、Aさんが数字をはさみで丁寧に切り抜き「できたよ」と、とても満足そうでした。それを見ていたBさんもやり始めました。お互い集中して切り抜いた数字を、嬉しそうに見せ合っている笑顔が素敵でした。

ほし組 下山 静菜



いちばんぼし





10月までは保育者がしていた布団畳み。11月から、こどもたちがするようになりました。最初は「布団畳んでみようね」と声を掛けていたのですが、今ではお昼寝から起きると保育者が声を掛けなくても自分で畳んでいます。また、手伝おうとすると「自分です」と、押し入れまで自分で運ぶ姿もあります。週末のシーツ外しも、こどもたちが自分でしています。「できない」「難しい」と言っていたこどもたちが、今では「やりたい」と掛け布団の端と端を合わせてきれいに畳み、片付けまで自分で行う姿に、日々成長を感じています。これからもこどもたちの“自分でやりたい”を受けとめ、見守っていただけたらと思います。

つき組 竹内 和羅



園庭であそぶことが大好きなにじ組さん。置いてある平均台に登って渡って楽しんでいると「もっとしたい!」と思ったようで友だちに声をかけ、近くにあった別の平均台を二人で「せ~の」で持ち上げて「よいしょ。よいしょ。」と運んで繋げて長くしていました。その姿を見た別の友だちも繋げようと思いいベンチを一人で持ち上げてズルズルと…。平均台4つとベンチ6脚ほどをつなげて長い一本橋になりました。

平均台を全部つなげて満足した後は、落ちないように慎重に慎重に渡って楽しんでいました。

大人が手助けをするのは簡単ですが、こどもたちが、自分でやりたくてしている姿を大切にしたいなと改めて思いました。

にじ組 大森 航輝



なんでも自分でやりたくてたまらない…。そんな姿が以前よりぐっと増えています。保育者が手伝おうとすると、「いや！」とお断りされることもしばしば…。

その中でも、こどもたちの自分でやりたいブームNo.1が、靴下と靴を履くことです。保育者に向けて足を差し出し、履かせてもらおうとする姿も、最近は見られなくなってきました。

戸外あそびが大好きで、早く外に行きたいこどもたちは、自分で靴、靴下を履こうとやる気です。私たちは、こどもたちが少しでも履きやすいように、アドバイスをしつつも手は出さずに見守る日々です。これがまたやきもきしてしまうのですが…。気が付くとこどもたちの努力が実り、何人もの子が一人で履けるようになっていきます。

「一人でしたい!」「手伝わないで!」の気持ちを受け止め持つことの大切さを日々実感しています。

ゆき組 土屋裕香



自分でやりたい気持ちが少しずつめばえてきています。保育者がパジャマ袋を広げていると、ひとつずつ丁寧に服をしまおうとしたり、パンツ、ズボンの着脱をやってみようとしたりする姿も見られるようになってきました。

なかなか脱げなかったり、同じ所に足をいれてしまい上手く履けなかったりすることもあります。諦めずに自分で着脱をしています。

つい手伝いたくなりますが、難しい時だけさりげなく手伝いながら、自分でできることが少しずつ増えていくようにしたいと思います。

はな組 玉置七彩



全私保連保育運動
新しい時代は
子どもから

保護者の皆様へ 私たちが伝えたい7つのメッセージ



今回のメッセージは……

その4 子どもの「自分で
やりたい」を大切にしましょう

子どもの頃、たくさん失敗や痛い思いをした経験が皆様にもあると思います。その経験が今生きていることの糧になったことも多いのではないのでしょうか。

思い出してください。失敗や痛い思いをした時、自分はどんな気持ちでその行動をしたのか……と。「絶対失敗するぞー」「必ず痛い思いをするぞー」と思っていたはず、怖いもの知らずだったはず。だからこそ失敗や痛い思いを経験することができて、宝物を得ることができたと思います。

今、そんな経験を踏まえて大人になり、親になった私たちが、同じように宝物を得ようとしている子どもたちから、大切な経験を奪ってしまつことが多くなつてはいないでしょうか？

成功する道筋を先に教えてしまつたり、危ないからと、遊びに歯止めをかけてしまつたり……と。

大切なことは結果ではなく、溢れる興味と、



向かう勇氣、やり遂げようとする強い気持ち、成し遂げた時の達成感と自己肯定感なのではないでしょうか。そんな宝物を得ようとしている子どもたちを、温かい目で見守ってほしいと思います。

家族団らんの時間、テレビではクイズ番組が放映されていました。問題が出されて、子どもは一生懸命考えているのに、先に答えを言ってしまうお父さん。お母さんからの冷たい視線(笑)。子どもは答えを知ることができましたが、考えることはできませんでした。すぐに答えを忘れてしまうことでしょうか。自分で考え導き出した答えではないから。だったら、一生懸命考えて間違つた方がまだよかつたかもしれませんね。

朝は、どこのご家庭も大忙し。玄関で、自分で靴を履こうと頑張る子ども。お母さんが「急がなきゃ」と焦る気持ちは十分わかります。でも片方だけでよいから、「自分で」と頑張っているわが子の気持ちを大切にしておいてあげてもらえませんか？

「口に入るより、溢している量の方が多いのでは？」と思うような食べ方のわが子。でも、小さい手で、不器用ながら力強く生きようとしている姿です。

子どもの「自分で食べたい」「自分で」という思いを、大切にしておいてあげてください。